

東北海区沿岸水温予報（2015年）

海域	経過 (12~1月)	現況 (1月上旬~ 2月中旬)	見通し (2~4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県 太平洋沿岸； 青森水総研 発表)	2014年12月の津軽暖流の各層最高水温は0m層、50m層、100m層共に「 平年並み 」。水塊深度は、「 平年並み 」。張り出し位置は「 はなはだ東偏 」。 沿岸定置水温は、12月は「 やや低い 」、1月は「 やや高い 」。	沿岸定置水温は「 平年並み 」で推移している。	沿岸水温は「 平年並み 」で推移する。	2月の日本海観測では、0m、50m、100mの各層最高水温は「 平年並み 」。流幅は「 平年並み 」、水塊深度は「 平年並み 」、北上流量は「 やや強い 」であり、勢力は「 平年並み 」と判断された。	なし。
三陸中部 (岩手県 沿岸； 岩手水セ 発表)	【12月】 表面水温 距岸10海里以内は、県中部10海里で「 やや高い 」のほかは「 平年並み 」 距岸10海里以東は、「 平年並み 」～「 やや高い 」 100m深水温 距岸10海里以内は、県北部から県中部の10海里で「 やや高い 」のほかは「 平年並み 」 距岸10海里以東は、本県20～30海里付近で「 平年並み 」～「 やや低い 」、県中部の40～50海里で「 やや高い 」 【1月】 表面水温 距岸10海里以内は、全域で「 やや低い 」 距岸10海里以東は、県南部で「 やや低い 」のほかは「 平年並み 」 100m深水温 距岸10海里以内は、県南部で「 やや低い 」のほかは「 平年並み 」 距岸10海里以東は、全域で「 平年並み 」	【2月中旬】 表面水温 距岸10海里以内は、県北部から県中部で「 低い 」～「 極めて低い 」 距岸10海里以東は、県北部から県中部で「 やや低い 」～「 低い 」、県南部で「 平年並み 」～「 やや低い 」 100m深水温 距岸10海里以内は、県北部から県中部で「 やや低い 」～「 低い 」 距岸10海里以東は、県北部から県中部で「 やや低い 」～「 低い 」、県南部で「 平年並み 」	100m深:3月は県北部沿岸がやや低めのほかは平年並みと予測。	農林水産省「 食料生産地域再生のための先端技術展開事業 」において開発した統計的予測モデルによる。	マイワシおよびサバ類（定置網）の水揚げが好調
三陸南部 (宮城県 沿岸； 宮城水セ 発表)	<12月> 先月に続き本県の沿岸から沖合海域の水温は表面、100m層とも平年より低め、特に100m層の38°30'N、142°10'E付近に7℃台の冷水が見られた。 【表面水温】 宮城県沿岸から沖合海域の表面水温は、12～14℃台となっており、平年より低めとなっていた。 【100m深水温】 100m深水温は7～13℃台となっており、特に38°30'N、142°30'E付近に7℃台の冷水が見られ、平年より5℃も低めとなっていた。 <1月> 本県海域の水温は表面、100m層とも概ね平年より低めで、沖合域からの冷水波及がみられていた。 【表面水温、100m深水温】 宮城県沿岸から沖合海域の表面水温、100m深水温ともに5～10℃台となっており、概ね平年より低めとなっていた。また沖合域からの親潮系冷水の波及がみられ、仙台湾を除き表面、100m層とも1～4℃低めとなっていた。	<2月> 本県海域の水温は表面、100m層とも4～9℃台で、38°30'N以南で親潮系冷水の波及が引き続きみられている。 【表面水温、100m深水温】 宮城県沿岸から沖合海域の表面水温、100m深水温ともに4～9℃台となっており、38°30'N以南で沖合域からの親潮系冷水の波及がみられ、表面では38°30'N以北、仙台湾を除き平年より1～3℃低めとなっている。また亙理沖合ライン(38°N)の141°50'E付近に4℃台の冷水が見られ表面、100m層ともに平年より3℃低くなっている。一方、気仙沼沖合ライン(38°50'N)の142°30'E付近は9℃台で100m層では平年より2℃高くなっている。	<3月> 38°50'Nライン(気仙沼沖)は平年並みで推移。 38°30'Nライン(雄勝沖)は142°30'E以東がやや低め、以西が平年並みで推移。 38°ライン(亙理沖)の142°10'E以東は低め、以西が平年並みで推移。 <4月> 38°50'Nライン(気仙沼沖)は142°30'E以東がやや低め、以西が平年並みで推移。 38°ライン(亙理沖)の142°10'E以東は低め、以西が平年並みで推移。	水温経験的予測システムの主成分スコア自己帰帰モデル及び類似年モデルによる予測。	定置網でマイワシが好調(2月)。

<p>常磐北部 (福島県沿岸；福島水試発表)</p>	<p>12月は塩屋埼定線のみ観測となったが、表層では「やや低め」、100m深では「平年並み」であった。1月は表層、100m深とも「やや低め」であった。</p>	<p>1月は表層、100m深とも「やや低め」、2月は表層が「やや低め」、100m深は「平年並み」であった。 小名浜の定地水温は平年差-1.8～+1.6℃であったが、1月は平年並み、2月はおおむね低め基調で推移した。一方、松川浦は-1.0～+0.5℃であり、おおむね平年並みで推移した。</p>	<p>「平年並み」～「低め」で推移する(100m深)。</p>	<p>2/10に発表された気象庁の1か月予報(2015/2/11～3/10)によると、親潮第一分枝先端は「40N,143E付近」、面積は「平年より大きい状態が続く」と予想されており、本県沿岸への直接の影響はないものと見込まれる。 また、FRA-ROMSによる4月中旬までの解析結果によると、黒潮流軸は34.5～35.5Nと南偏傾向であり、黒潮系暖水の沿岸域への波及も弱いことが示唆されている。一方、親潮系冷水は三陸沖の暖水塊の東側を回る状態が継続するが、4月になると暖水塊が小さくなり、本県沿岸への波及が見込まれる。 これらのことから、本県沿岸への黒潮系暖水の顕著な波及はなく、4月になると親潮系冷水の波及が見込まれることから、「平年並み」～「低め」と予測した。</p>	<p>特になし。</p>
<p>常磐南部～鹿島灘 (茨城県沿岸；茨城水試発表)</p>	<p>12月上旬は、11月の暖水波及による影響が残存し、沿岸域の100m深で平年よりやや低めであったことを除き、全層・全域で「平年並み～高め」であった。会瀬～犬吠埼沖合で、黒潮の強い潮流が観測された。 1月上旬は、冷水が南下した影響により会瀬～大洗では低めで推移した一方、鹿島～犬吠埼沖では引き続き暖水の影響が残り「平年並み～高め」であった。県北部では逆潮傾向が強くなり、県南部では黒潮の流れが観測された。</p>	<p>2月上旬は、冷水が茨城県沖を南下してきたことにより、大洗沿岸域の表層を除き全域で「平年より極めて低め～低め」であった。</p>	<p>「低め」で推移する。</p>	<p>①気象庁の1か月予報(2/10発表)によると、親潮第一分枝の先端は北緯40度、東経145.5度に位置すると予測されている。また、親潮の面積は平年より大きいとの見通しである。 ②2月海洋観測100m深水温を用いた自己回帰モデルによる解析では、3月は「低め」、4月は「低め～やや低め」となる予測結果であった。</p>	<p>①12月・1月に本県沖でマサバの漁場が形成され、記録的な豊漁となった。 ②1月中旬のトロール調査において、深海性希少種であるカグラザメが生きたまま入網。 ③2月の海洋観測で、冷水の南下により沖合域では「極めて低い」海域が大部分を占めた(鹿島沖で～-9.6℃)。</p>

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸 10 海里内	距岸 10～70 海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4℃～	+4.0℃～	+6.0℃～	+2.4℃～	+4.0℃～	+4.0℃～
高い (7.5%)	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	4.0～+5.9℃	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+2.5～+3.9℃
やや高い (20%)	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	1.5～+3.9℃	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.0～+2.4℃
平年並 (40%)	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	1.4～-1.4℃	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+0.9～-0.9℃
やや低い (20%)	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	1.5～-3.9℃	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.0～-2.4℃
低い (7.5%)	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	4.0～-5.9℃	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-2.5～-3.9℃
極めて低い(2.5%)	-2.4℃～	-4.0℃～	-6.0℃～	-2.4℃～	-4.0℃～	-4.0℃～